



ロンドフードサービス株式会社

異業種のスキルと 経験を取り入れて経営革新



幹部候補の大原一繁さん(左) 会長の土高収蔵さん(中)
社長の土高功陽さん(右)

馴れ合いからの脱却を目指し 事業承継を決意

「地域のお役立ち企業」を掲げて、市内の事業所に手作り感あふれる弁当を届けている。「今までと同じビジネスのやり方で成長していけるか?」と創業者の土高収蔵さん(68)。コンビニ弁当などとの競争が激しさを増している中、体に優しい素材を使った低カロリーのヘルシーランチや、高齢者が口にしやすい味覚や食感にこだわった日替わり弁当など、多様なニーズに応える商品開発で顧客のすそ野を広げてきた。売上げも業績も順調。その一方で、「現状を維持すればいいという社内の雰囲気を変えなければ

いけない]と考え、長男の功陽さん(34)に社長の職を譲った。

子どもの頃から、仕事一筋で忙しく駆け回る父親の背中を見てきたという功陽さん。当初は、決められた道を進むことに反発もあったというが、会社を支えてくれる従業員や取引先、お客様と関わっていく中で、「与えられた環境に感謝して、天職だと思って働くことが自分の成長につながる」と事業承継を前向きにとらえるようになったという。

ミライミーティングで 即戦力のある人材を獲得

今まで、収蔵さんが自らの個性を活かして経営を引っ張ってきたが、「これからの時代は、トップダウンの経営でなく、いろんな知恵や発想を取り入れていくことが必要」。早速、京都産業21が主催するミライミーティングに申し込み、共に夢を叶えてくれる幹部候補の募集を行った。

二十名以上の応募者の中から採用が決まったのは、大原一繁さん(48)。営業経験が豊富で、



1日に4千食を事業所等に配食

カフェのオーナーもしていたという異色の経歴の持ち主だ。フードコーディネーターの資格も持っているという。ミライミーティングで、 Rond Food Service が新規サービス開発と販路開拓に積極的に取り組んでいることを知り、「前職で培った営業力と食品に関する知識を活かして、自分しかできない仕事に挑戦できるのではないかと、入社を決めたという。現在は、営業部の課長として得意先を訪ねる毎日だが、「人材を一から育てることが難しい中小企業にとって、即戦力が得られるのは心強い」と功陽さんは話す。

10年先の市場を見据えた 事業展開で顧客の心をつかむ

「常に謙虚な心で前向きに」「能力を未来進行形でとらえる」。功陽さんは社長就任を機に、会社の基本理念となる Rond・フィロソフィーを作った。「当社は人が資本。一人ひとりが同じビジョンを共有していくことが、会社の成長につながる」。10年後の市場を見据えて、福祉施設や地域おこしイベントへの配食、パーティー会場へのケータリングサービスなど、“食”を柱とした新規事業を社員一丸となって展開していこうと考

えている。

「自分が身に付けてきた経験を、企画開発力や営業力に変えて提供してほしい」と、大原さんに向けてエールを送る収蔵さん。例えば、以前、大原さんが経営していたカフェで好評だったメニューをアレンジして、今まで同社になかったような軽食やスイーツを開発できないだろうか。ほんの小さなアイデアの芽が、将来、会社を支える大きな幹に成長するかもしれない。異業種のスキルと経験がどのように事業の中で育っていくのか、これから楽しみは増すばかりだ。

「ファースト・コール・カンパニーでありたい」と功陽さん。お弁当のことなら Rond Food Service に相談しよう…。お客様に頼られるそんな地域ナンバー1の企業を目指して、二代目の周りには今日も意欲ある社員の笑顔があふれている。



味と価格に
こだわった弁当

DATA

Rond Food Service 株式会社

- 代表 | 土高 功陽
- 住所 | 京都市伏見区下鳥羽
- 業種 | 事業所用給食、仕出し弁当、
各種オードブルの製造販売等
- 社員数 | 75名